



富山赤十字病院 健診部



かがやき

人間ドック・健診施設機能評価
認定施設 認定第178号

第22号

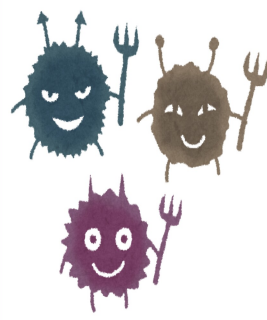
肺炎球菌ワクチンをご存知ですか？

総合内科医師 川原 順子

高齢になると肺炎に罹りやすくなります。肺炎の原因菌の一位は肺炎球菌です。65歳以上の高齢者では、肺炎球菌肺炎の死亡率が6%にのぼります。肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌肺炎の重症化の予防に効果があることが明らかになっています。これを受けて、65歳以上の高齢者を対象に肺炎球菌ワクチンの定期接種が行われています。該当する年齢の方に、市町村から接種券が送られてきます。自費で接種するより割安ですから、ぜひ規定の期間に接種して下さい。



実は身近な肺炎球菌がもたらすもの



肺炎球菌そのものは、ヒトの鼻粘膜に存在し、どこにでもある細菌です。子どもの中耳炎や咽頭炎など、よくみられる比較的軽症の感染症を起こします。しかし、免疫力が低下した方では、血液の中や髄液の中に入り込み、敗血症や髄膜炎になってしまいます。このような侵襲性肺炎球菌感染症の死亡率は高く、重症化予防のためワクチン接種が勧められます。年齢にかかわらずリスクが高いのは、基礎疾患（慢性心疾患、肺疾患、肝疾患、糖尿病、喫煙者）を持つ方です。かかりつけの先生と相談することをお勧めします。

重症化の主な原因

重症化のリスクが最も高い病状の一つに、脾臓の摘出があります。この場合は、ワクチン接種が保険適応になります。5年毎に必ず接種して下さい。胃や脾臓の手術の際に脾臓も切除した、事故で脾臓を損傷して脾臓を切除した、血液疾患の治療に脾臓を切除した、そのようなとき肺炎球菌ワクチンが必須です。

ワクチンの種類

なお、肺炎球菌ワクチンには、商品名でプレベナーとニューモバックスの2種類あります。プレベナーは一生に1回接種するワクチンです。定期接種に用いられるのはニューモバックスです。ニューモバックスの効果は約5年であり、2回目の接種は5年以上空けることになっています。その方の持病や健康状態、年齢によって、ワクチンの選択や注射のタイミングが異なります。実際のワクチン接種については、かかりつけの先生にご相談ください。



肺炎球菌ワクチン接種に関するよくある質問

健診センター師長 石黒 優子

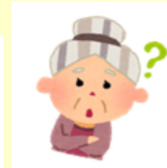


Q：高齢者の肺炎球菌ワクチンの定期接種は何歳で受けられますか？

A：定期接種の対象者は、65、70、75、80、85、90、95歳および100歳となる方です。また、60歳から65歳未満の方で、心臓、腎臓、呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害やヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害がある方となります。

Q：肺炎球菌ワクチンの副作用はありますか？

A：主な副作用は、注射部位のかゆみ、疼痛、腫れや発赤、発熱、関節痛、筋肉痛などです。接種から2日後にかけて腕の疼痛などの局所反応は2~3%、筋肉痛、37.5度以上の発熱は10%以下といわれ、通常3~4日で消失します。

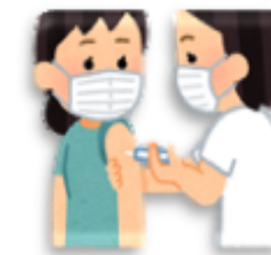


Q：いつでも受けることができるのですか？

A：基本的にいつでも受けることができます。ただし、インフルエンザなどの接種時期から1週間以上あける必要があります。

Q：費用はどれくらいかかりますか？

A：定期接種の対象者の方へは対象となる年度において公費助成が受けられます。予防接種券が送付されますので対象期間や自己負担額など内容をよく確認してください。定期接種の対象にならない方は、自費（自由診療）となります。富山赤十字病院では、ニューモバックス7,810円、プレベナー10,870円です。（令和4年2月現在）



Q：具体的にはどの様に申し込むのですか？

A：富山赤十字病院の場合、通院中の方は診療科の医師と相談していただき、予約をして接種となります。その他の方は、かかりつけ医と相談をしてください。

～かがやきをお読みいただいているみなさまへ～

みなさまが“いきいきとかがやいた健康ライフ”を送るお手伝いをさせていただきたいという思いから、健診センター情報紙「かがやき」を発行して5周年になりました。かがやきは地域の連携医療機関や健康保険組合、ご利用企業様などにお送りして情報発信しております。取り上げてほしい話題や情報がありましたらスタッフまでお知らせください。一緒に疾病予防と健康維持・増進に努めましょう。



☆来年度もよろしくお祈りします。今後の特集もお楽しみに☆